

2. 若者定住について

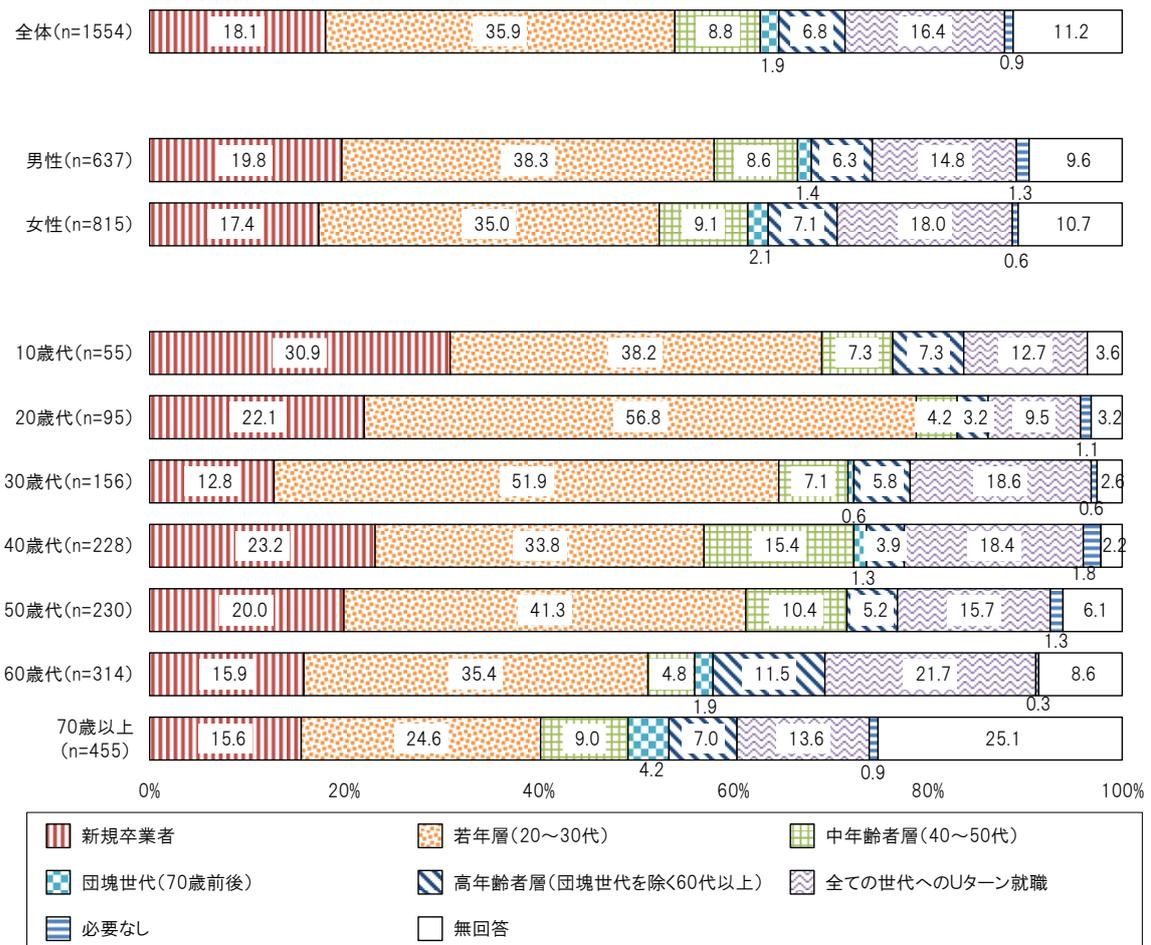
問13 あなたはどの年齢層への就労支援を充実することが最も望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

「若年層（20～30代）」が35.9%で最も高く、ついで「新規卒業者」が18.1%、「全ての世代へのUターン就職」が16.4%となっている。

性別にみると、「若年層（20～30代）」、「新規卒業者」については男性の方が割合が高く、「全ての世代へのUターン就職」については女性の方が割合が高い。

年代別にみると、いずれの年代でも「若年層（20～30代）」が最も高くなっている。20歳代、30歳代では「若年層（20～30代）」が半数を超えている。

問13 どの年齢層への就労支援を充実することが最も望ましいと思うか



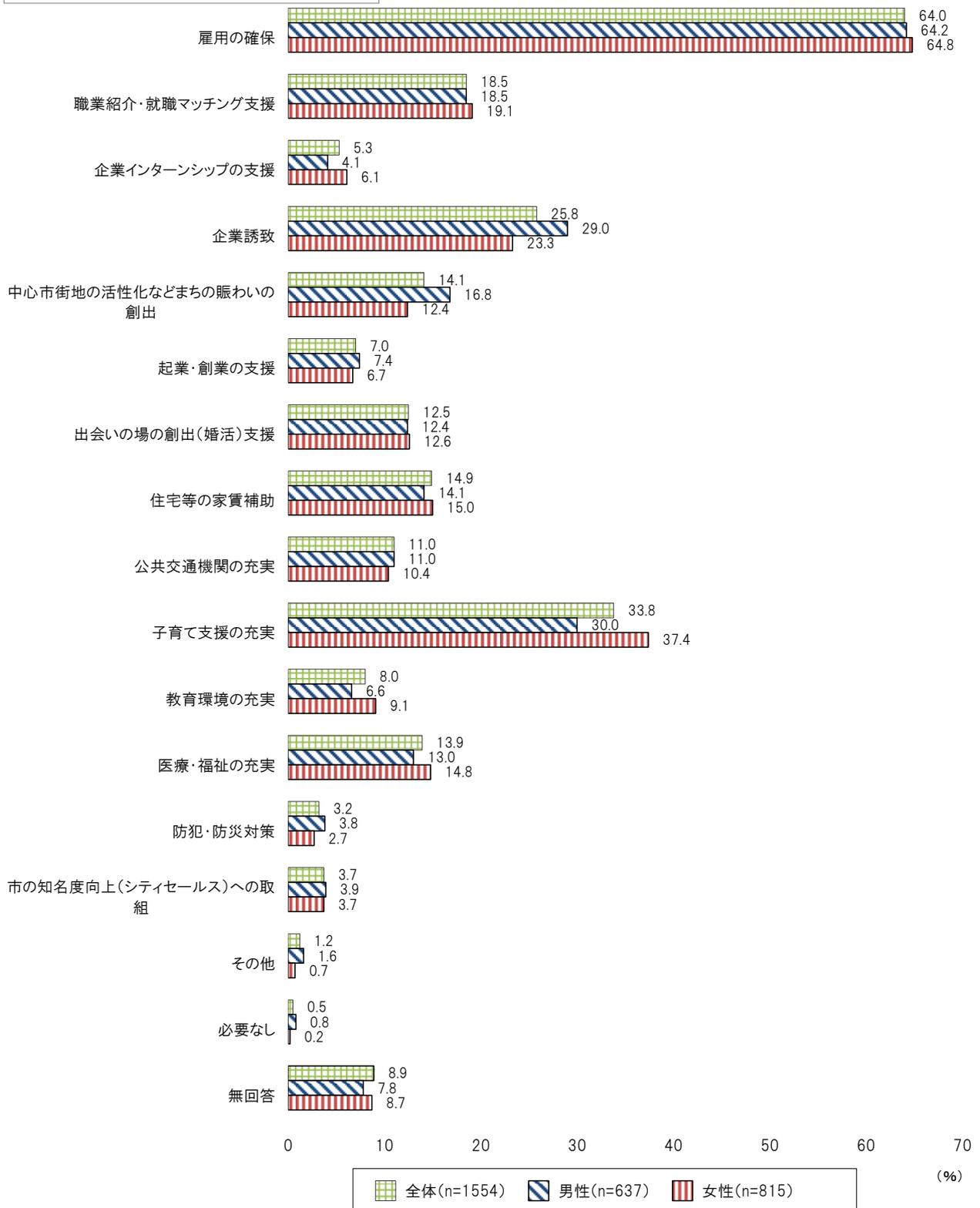
問 14 松阪市では若者定住に取り組んでいます。若者が定住するために効果的であることは何だと思いますか。(〇は3つまで)

「雇用の確保」が64.0%で最も高く、ついで「子育て支援の充実」が33.8%、「企業誘致」が25.8%となっている。

性別にみると、1番目、2番目、3番目に多かった項目は男女で同じであった。男女の間で最も差が大きかったのは「子育て支援の充実」で女性の方が7.4ポイント高かった。

年代別にみると、いずれの年代も「雇用の確保」が最も高くなっている。2番目に多い項目は、10歳代を除く他の年代では「子育て支援の充実」であり、10歳代では「職業紹介・就職マッチング支援」となっている。3番目に多い項目は、20歳代、30歳代を除く他の年代では「企業誘致」であり、20歳代では「住宅等の家賃補助」、30歳代では「職業紹介・就職マッチング支援」となっている。

問14 若者が定住するために効果的であること



問14 若者が定住するために効果的であること

